

深・魅力通信

世界と繋がる袋井あやぐも学園袋井中学校

12月16日袋井中学校の1年6組では、3・4時間目の社会科の授業で「世界へ発信！！私たちがつくる持続可能な世界～SDGs発表会～」を行いました。SDGs(持続可能な開発目標)とは「2015年9月の国連サミットで採択された『持続可能な開発のための2030アジェンダ』にて記載された2016年から2030年までの国際目標」のことです。授業では、中国・フィリピンの日本人学校や日本の小学校とZoomでつながって、各校の発表を見たり、意見交換をしたりして、持続可能な社会のために自分たちができることを考えました。



授業に参加した生徒の感想

- ・蘇州日本人学校からの「差別をなくすにはどうすれば良いか」と問い掛けに対して、愛知県津島市立東小学校が「家庭で話し合えば良い」と答え、さらに蘇州日本人学校から「家庭の中が分断されている場合はどうすれば良いのか」という質問が出て、愛知県津島市立東小学校が「助け合いを社会に広げていく」と答えていました。このやりとりを見ていてすごいと思いました。
- ・SDGsはスケールがとても大きくて、それぞれの分野の目標が繋がっていることに気付きました。
- ・上海虹橋日本人学校の発表を聞いて、持続可能な社会を創るために、自分たちにもできることがたくさんあることに気付きました。

授業者と授業参観者の感想

学校教育課村松指導主事

子どもたちはとても一生懸命取り組んでいました。世界と繋がっている自分や、未来と繋がっている自分を感じることができる授業でした。

中学生が、持続可能な社会の実現に向けて「自分ごと」として捉え、自分には何ができるかを考えることの大切さを感じるとともに、学校教育が担う役割の大きさを実感しました。

授業者の袋井中学校辻村教諭

世界中の同世代の児童生徒と、SDGsについて学び合えたことは、とても貴重な経験だったと思います。それぞれの発表を聞いて、大切だと思ったことは、実際に行動に移したり、周りの人に伝えたりして、持続可能な社会を創ってほしいです。

袋井中学校研修主任奥村教諭

生徒全員が目を輝かせながら取り組んでいる姿が印象的でした。海外や県外の人たちと繋がっていることや同世代の小中学生から、刺激を受けることで、より一層主体的に考え、学びを表現する楽しさを感じられたと思います。今後も ICT 機器の強みを生かしながら、子どもたちの視野を広げ「自分ごと」として考えていく機会を増やしていくことが必要だと感じました。



今回の授業は、ネット環境が整備されて iPad をクラスの全員が使える環境がある袋井市だからこそ実現できたものでした。ICT の強みをフルに生かすことで、袋井あやぐも学園内の小学校と小学校のコラボ授業や小学校と中学校の交流活動など、小・小や小・中との新たな繋がりを創り出せる可能性を感じさせる貴重な授業となりました。